

**[成果情報名]** 台木の異なる「南高」の樹体生育、果実形質、収量性及び加工性

**[要約]** 台木に「地蔵」、「小粒南高」、「二青梅」、「西洋梅」および「南高」の実生を用いた「南高」樹において、樹体生育、果実形質、収量性、梅干し加工性に大きな差は認められず、いずれの品種でも「南高」の台木として同等に使用できる。

**[キーワード]** ウメ、台木、生育、果実形質、収量、加工性

**[担当機関名]** うめ研究所 **[連絡先]** 0739-74-3780

**[部会名]** 果樹 **[分類]** 指導

#### **[背景・ねらい]**

ウメ「南高」の台木には一般に共台が用いられているが、安定生産のためには「南高」に適した優良台木の育成が求められている。そこで、種子親品種の異なる台木を用いた「南高」において樹体生育、果実形質、収量性及び加工性を比較検討し、「南高」に適した優良台木を選抜する。

#### **[成果の内容・特徴]**

1. 幹肥大、果実形質、梅干し加工性については、台木品種の違いによる大きな差は認められない（表1、2、4）。
2. 樹容積、着果率についても台木品種の違いによる差は認められない（データ省略）。
3. 初期収量性については、西洋梅台でやや優れる傾向であるが、9、10年生および10年生までの総収量では台木品種の違いによる差は認められない（表3）。

#### **[成果の活用面・留意点]**

1. 今回供試した台木品種については、「南高」の台木として実用的に問題なく使用できる。

表1. 「南高」の台木品種の違いと樹体生育

台木品種	幹周 (cm)	
	1997年	2006年
地蔵	5.1 (100)	52.3 (1096)
小粒南高	4.0 (100)	50.0 (1276)
二青梅	5.2 (100)	51.7 (1010)
西洋梅	4.8 (100)	50.9 (1057)
南高	- (-)	49.9 (-)
有意性	ns	ns

注) 南高台樹は2004年から樹変更のため2006年のみ記載  
 調査: 11月  
 幹周の ( ) 内は1997年(定植時)を100とした肥大指数  
 nsは各区で有意差がないことを示す (Tukey)

表2. 「南高」の台木品種の違いと果実形質

台木品種	果実重 (g)			果肉歩合 (%)			果実硬度 (kg)		
	2004年	2005年	2006年	2004年	2005年	2006年	2004年	2005年	2006年
地蔵	27.7	28.7	44.5	91.1	91.6	91.6	1.32	1.05	1.56
小粒南高	25.8	30.3	46.4	91.0	92.3	91.4	1.34	1.03	1.59
二青梅	28.1	29.1	44.4	91.1	91.7	91.7	1.15	1.04	1.56
西洋梅	28.9	26.6	42.0	91.8	91.7	90.7	1.18	1.01	1.54
南高	26.6	33.4	42.8	92.0	92.1	91.3	1.05	0.96	1.44
有意性	ns	ns	ns	ns	ns	ns	ns	ns	ns

注) 調査: 2004年6月10日、2005年6月17日、2006年6月20日  
 果実硬度は定深度測定による値 (直径5mm円柱、侵入1mm)  
 nsは各区で有意差がないことを示す (Tukey)

表3. 「南高」の台木品種の違いと収量

台木品種	収量 (kg)							
	2000年	2001年	2002年	2003年	~2003年 <sup>1)</sup>	2005年	2006年	~2006年 <sup>2)</sup>
地蔵	0.08 a	0.06 a	1.20 a	2.52 a	3.86 a	11.18 a	18.95 a	34.0 a
小粒南高	0.13 a	0.62 ab	2.24 a	2.78 ab	5.77 ab	7.04 a	19.19 a	32.0 a
二青梅	0.13 a	0.72 ab	1.59 a	1.66 a	4.10 a	8.97 a	15.69 a	28.8 a
西洋梅	0.36 a	0.99 b	2.41 a	5.34 b	9.11 b	13.43 a	22.58 a	45.1 a
南高					-	8.45 a	14.00 a	-

注) 南高台樹は2004年から樹変更のため合計に記載せず 調査: 6~7月  
 2003年および2006年は完熟落果収穫、それ以外の年は青果収穫  
 1) 2000年から2003年までの合計  
 2) 2000年から2006年までの合計 (2004年は移植翌年のため含まない)  
 異符号間で有意差あり (Tukey)

表4. 「南高」の台木品種の違いと白干し梅の品質

台木品種	果肉 硬さ	果皮			果実重 (g)	果肉歩合 (%)	Brix	シコリ果 (%)
		硬さ	厚さ	破れやすさ 色				
地蔵	軟	ヤ軟	薄	難 淡紅	26.0	84.3	36.1	3.0
小粒南高	軟	ヤ軟	薄	難 淡紅	26.8	84.5	35.9	1.0
二青梅	軟	ヤ軟	薄	難 淡紅	26.6	82.6	36.6	1.0
西洋梅	軟	ヤ軟	薄	難 淡紅	26.1	83.4	36.2	1.0
南高	軟	ヤ軟	薄	難 淡紅	27.4	84.1	36.3	1.0

注) 2006年加工・調査  
 加工方法: 完熟落下果実に塩を20% (ノ果実重) 加え、約60日後に約3日間天日干  
 果実重、果肉歩合: 30果の平均値  
 Brix: 10果の平均値  
 シコリ果: 果肉の一部が固くなる生理障害果、100果調査

[その他]

研究課題名: 優良台木の探索と育成

予算区分: 県単

研究期間: 平成11~18年

研究担当者: 根来圭一、林恭平